

ひと あい えどがわ

No.8

江戸川総合人生大学発

人と地域をつなぐ情報紙

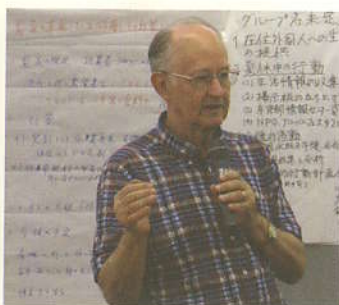
EDO GAWA
SINCE 2004
SOU GOU-JINSEI-DAIGAKU

発行／江戸川総合人生大学
編集／「ひと あい えどがわ」
編集委員会
発行日／2008.11.10

人との出会いのすばらしさ！

江戸川総合人生大学 国際コミュニティ学科 学科長

ジョージ・W・ギッシュ



この秋に新たに5期生の新入生百人ほどが加えられて、国際コミュニティ学科も新しいスタートが出来ました。各学生には卒業する前に、二年間の学習体験

を評価してもらいます。毎年「一番良かった」という評価は「素晴らしい仲間と出会った」なのです。

今年も殆ど他人同士の5期生にどのような出会いが待っているのか楽しみにしています。

最初の授業のなかで、自分の国際的体験を自己紹介することから、お互いの関心度が高まっていきます。長年の海外勤務や若いときの留学、度々の海外旅行や自分の子どもたちの国際結婚等々の体験談を聞きながら、同じ江戸川区に生活している方々の中にこんなに豊かな国際経験者が多いということをお互いに発見することこそ「国際的まちづくり」の基礎になってきます。

その経験を踏まえながら、少しずつその輪は江戸川区の各地域に広がってきました。自分達のフィールドワークを通して区内に住んでいる他の国から来ている2万4千人以上の方々の生活状況を把握しつつ、その人達との交流が深まってきました。その中で又、素晴らしい出会いが繰り返される。益々、自分達の人生も相手の人生も豊かになっていきます。

私の人生も、この江戸川総合人生大学で与えられた出会いを通して、より豊かになりました。私自身のフィールドワークのテーマは「日本の音楽とその文化史」です。その中で出会った「迷悟もどき」という薩摩琵琶歌の言葉にはこの「人生大学」の精神がうたわれています。

♪何れ人には情あれ。情は人の為ならず、廻り廻りて小車の後は我身の為となる♪

要するに、「まちづくり」という「情け」は「自己づくり」でもあり。「ひと」との「出会い」のなかで「人を愛する」江戸川区のまちづくりが成り立っていくのです。

授業紹介 選択科目「地球環境を考える身近な活動」がスタート

地球温暖化をはじめ食の危機など、私たちの認識よりもはるかに早い速度で環境バランスが崩れているようです。さて、私たちはこの差し迫った問題に個人個人で一体何ができるのでしょうか。身近なところから考え具体的に行動をおこしていく手がかかりとしてこの講座が始まりました。これまで地道な活動を続けてきた「えどがわエコセンター」の協力を頂き、教室での講義だけでなく、野外での実態調査なども組み、地球環境の維持という意義のあるテーマに近づきます。第1回は北野学長による「環境問題入門」からはじまり、問題の奥深さと次世代への責任を強く意識する授業となりました。世界人口は現在65億強といわれています。一体この地球には何人の生命が存続できるのでしょうか。草の根のレベルでもう一度身近な課題に取り組みます。

「足るを知る」——物から心の充足へと一人ひとりの意識改革が求められます。



人生大学 地域のために自分を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな人のために江戸川区が開設した区民のための大学です。現在、1年生と2年生合わせて約180人の学生が、熱心にそれぞれの目的や課題に向けて授業に取り組んでいます。
(* 学校教育法等で定める正規の大学ではありません。)

3 期 生 が 語 る 江 戸

司会：ご卒業にあたって2年間で心に残ったことを一言お願いします。

一木：授業は、何が飛び出してくるかわからなくて、興味津々で面白かったです。それと、人間関係の難しさと楽しさを学びました。私たちはそれぞれ考え方も違いますから、何をやるにも人間関係が大切だと思います。

森川：一年生の時、手作りえどがわ講座で葛西地区に「おしゃらく」という郷土芸能があるのを知り、大学祭で地元保存会の方に披露してもらいました。自分が学び掘り起こしたものについて多くの人が関心を持ってくれたことがとても嬉しく、生き方の意欲が出てきました。

久津：ボランティア活動で、インド人学校（GIIS）に日本語サポートに行った際、日本の教育とは違い、あまりに自由奔放でカルチャーショックを受けましたね。

一番印象に残ったことは、一年次にはいきなりフィールドワークや発表と言われ、かなりとまどったこと。二年次では、大学祭でインドダンスを踊ることになり、最初はできるかしらと心配しましたが、始めると結構できるし、楽しいものだなと思いました。

千葉：特別に印象が強かったことは、江戸川区議会議員との「国際交流・多文化共生」についての意見交換会を実施したこと。

その後、議員さんたちも関心を寄せてくださったので、後輩たちにも議員との交流を深めてほしいですね。

戸田：総合人生大学では、一般大学の教授に教えてもらえるのが魅力で入学しました。一年次は、ゲーム感覚で次は何？などと興味津々で楽しかったです。二年次の卒業課題で大変な思いをしましたが、年代が違う人たちとの交流があってよかったと思いました。40時間のボランティアは、中高生に興味がありましたが、活動時間に問題があり、苦手な「赤ちゃんの見守り」を選びましたが、孫感覚で「かわいい」を実感。今でも続けています。

渡邊：印象に残っているのは、いろいろな先生の話の聞いたり、江戸川区のこと、ココロとカラダの科学の授業など、すべてが楽しみでした。卒論も自分らしく、気取らずに書けばよいものを書けたと思いました。親と同世代の人に助言してもらえて、一気に家族が増えたようで本当に嬉しかったです。

桶谷：私はクラスで一番若いということで優しくしてもらい、人の温かさをしみじみと感じたことでした。講師・先輩のお話は成功談が多かったけれど、欲を言えば失敗を乗り越えた経験談も聞きたかったと思いました。

海老原：退職後、漠然と入学をしたのですが、とても仲の良いクラスで介護・福祉分野の専門職も多く親切に教えられたこと、ボランティア活動で高齢者配食作りを20年も続けておられる方との交流の中でその精神と技術を学べたことです。

今年 9 月に卒業した ～ 2 年間の学

心に残っていること・在学生への

国際コミュニティ



千葉 透



久津のり江



桶谷 貴子



海老原 紀久代



司会 松岡 滋子

介護・福祉

資源の地域循環にご協力を！・・・・・・・・・・えどがわエコセンター

- ★「えどがわ油田開発プロジェクト」では使用済み食用油を回収し、BDF(バイオディーゼル燃料)を製造、富士公園のシャトルバスや清掃車、運送会社の車両燃料として利用する事業を行っています。食用油の原料は植物なので、生長する過程でCO2を吸収し、温暖化防止にも役立ちます。
- ★みなさん、使用済み食用油を提供してください。提供してくれる事業所(商店、レストラン、施設など)の情報を教えて下さい。提供していただいた油は資源として買い取りますが、その代金は提供者に理解していただいたうえで、積み立て、植樹運動に役立てます。油を提供することでCO2削減に二重に寄与することになります。
- ★まずはご一報を！詳しくはこちらへ・・えどがわ油田開発プロジェクト：TEL 5659-5958
Email info@edogawa-yuden.com



江戸川総合人生大学

3期生の方を迎えて
びを終えて～
アドバイスをお伺いいたしました。

江戸川まちづて



森川 蕉子



一木 悦子

渡邊佳保里



子ども支援

戸田 範子



司会：次に在学生へのアドバイスをお願いします。

一木：クラスメイトや他の学科の方との交流はとても大切ですが、まず、先輩・後輩がやっていること、やろうとしていることなどを気にかけて情報を得る、参加するなど縦のつながりも大事だと思います。

森川：クラスメイトは年齢も違うし、生き方も違います。一年目は、多少の殻を被っており、心の中も見えませんが、仲間と和を保つことが大事です。その上で他の学科の人たちと交流を持って、学生生活を豊かにしてほしいと思います。

久津：最初は難しく思っても、何でもやるからには楽しんでやった方が得ですし、「何でもやってみよう」という精神でやると面白くなってくると思います。

千葉：江戸川区在住の中国人や残留孤児の実態を知ってもらうためにも、ぜひ、小松川二中の夜間学級を訪問してほしいですね。今後は「あいうえおの会」を母体とした日本語サポート活動として、インド人学校や夜間学級にも関わっていきたいと思っています。

ギッシュ先生は「結果よりもプロセスが大事だ」とおっしゃいます。私も結果は卒業までに出なくても、プロセスが大事で、今後のために継続していけば最終的にいい結論が出るのだと思いますし、今後に活かす為のきっかけを学ぶという姿勢で取り組んでいけばいいんじゃないかと思っています。

戸田：1年の時の選択科目の授業で全学科の方たちと毎回違うグループで話せたことがとても勉強になりました。あとは私が運営委員になったときにも連絡会議で全学科の委員から各クラスの情報を聞くことができて、親しくなることができました。進んで運営委員になることを強くお勧めします。

渡邊：強く言いたいことは「こんな素敵な出会いがあるんだよ」ということ、私たちの学科は平均年齢が一番若くて、今はやりたいことがまだなかなかできない状態の人が多いいけれど、学生生活の中で小学校で絵本を読んだりして、色々な場面でその人なりのボランティアというものができていることは認識できました。色々な人と関わりを持とうと思う姿勢があれば、横の関係ができ、勉強した分は自分の身につくので、やってください！と後輩の人たちに言いたいです。

海老原：大学祭の実行委員を務めてみて、各学科との交流が大切だったことに気がきました。4・5期生の皆さんには、積極的に手を上げて大学全体の行事に参加され、お世話役をされることをお勧めします。

桶谷：私は今、皆さんのお話の中から一歩踏み出す勇気がなかったことを反省しています。この場所で出会い、全体の交流で得たことは今後の活動の中に必ず活きると思います。他学科の魅力的な講義も多く、もっと聴講できればよかったと思います。

ボランティアセンター事業紹介【出前！ボランティア体験】

ボランティアセンターでは、江戸川区福祉ボランティア団体協議会活動部会と協働して、「出前！ボランティア体験」事業を実施しています。出前！ボランティア体験は、区内小・中学校、高校、専門学校や事業所を対象に、障害のある方とボランティアが出向き、障害のある方の講話や車イス・ガイドヘルプ（視覚障害体験）・点字・手話の体験をしていただくプログラムです。こうした体験を通じて、身の回りで自分の出来ることに気づき、人を思いやるボランティアの心を育んでほしいと願って実施しています。平成19年度は小・中学校50校、高校・専門学校3校、事業所等7件で実施し、延べ8,000人以上の方が体験されました。協力ボランティアは延べ500人以上で、ボランティアの方の力なくしては成り立たない事業です。

体験のご相談はボランティアセンターまで。

【お問い合わせ先】ボランティアセンター 電話：5662-7671

旬なひとたち



巴研究家 出井 武吉さん (67 歳)
江戸川区大杉在住

バラを愛して50年、手塩にかけたバラたちは、クィーンエリザベス杯、日本バラ協会会長杯優勝など数多く受賞され、江戸川区の「水と緑のサポーター」としてバラの栽培管理や技術向上のための研修・講習会などの活動を行っている出井武吉さんにお話を伺いました。

「数多くの花の中からバラに関心をもたれたのは？」

難しいと言われるバラ作りに面白さを見だし、22歳頃より一時中断はありましたが、バラに魅せられ50年、今なお勉強中です。

「数々の賞をいただいています、そのご苦労は？」

一本の花に賭ける勝負と言いますが、品評会に出せるのは、10本のうちの1本位です。ただ植えて育てるのではなく、手をかけ、声をかけ(きれいに咲いたね! ありがとう!) 愛情をかけて育てると花も応えてくれます。

葛西にある総合レクリエーション公園内のフラワガーデンの中心を彩っている 2,500

株のバラ園で毎月第2日曜日(9:30~)はローズボランティアサークル(会員30名)にバラの手入れ、第4日曜日は江戸川バラ養成講座(4月から翌年3月までの1年間)25名の生徒さんにバラ栽培の講師をされています。

ローズサークル結成当初(平成17年)から参加されている男性から

出井さんは、「気さくで、面倒見がよく、人気者なんですよ」と。

当日、14~5名の参加者によるバラの手入れ作業の指導をされながら、最後に私たちに

「バラは育て方の基本をマスターし、手入れ次第で30年から50年育てることができ

ます。『バラでまちづくり』バラを通してたくさんの人と出会い、人生が豊かになります」と熱く語ってくださいました。

《バラに関する問い合わせ》

090-1124-0226 (出井武吉)

(作業風景)



(江戸川まちづくり学科 後藤文夫)

(介護・福祉学科 市川孝子 勝倉洋子)

先生を紹介します

江戸川まちづくり学科
竹迫和代(たかばかすよ)先生



作画: 竹重真紀子

我が家には3人の娘がいます。まだ5歳、2歳、0歳なので、毎日が泣き声と笑い声と叱り声でごったがえしています。共働きなので、こどもたちは保育園に0歳の頃からお世話になっています。

元気に登園しているときはいいのですが、ひとたび誰かが病気になると大変! 実家が佐渡島と福岡なので、頼れる人は近所のママ友とこども好きのお婆ちゃんたちです。

私:「午前中だけ見てもらえますか?」
85歳のおばあちゃん:「いいよ! おんぶひも持つといで!」

こんな感じで都合のつく限りこどもを見ていてください。近所のサポートがなかったら、私は仕事を続けることはできなかったでしょう。もちろん、我が家も買い物のおつかいをしたり、重いゴミは出してあげたり、私たちにできるお手伝いをしています。

“お互い様”の関係づくり、これが住みやすい暮らしづくりには欠かせないとつくづく実感している今日の頃です。

同窓会の窓

本会は今年の4月に設立総会が開催され、半期が過ぎました。今期から3期生の皆さんも加わり、10月29日には第2回総会、懇親会を開催する運びとなり、本格的なスタートといったところです。月1回の定例役員会では学年、学科を超えた連係と活動支援について熱い議論を重ねております。難問山積の大会ですが、学びと体験を生かし地域に根ざした活動の推進を目指し、大学と一体となって邁進していくことを誓いあいました。当面、各ボランティア団体の活動支援などに取り組んで行く予定です。又、会員相互の情報交換の場として「同窓会だより」の発行にこぎつけました。

★イベント・サークル情報★区民の皆様のご参加をお待ちしております

催し	日時	会場	費用	主催・お問い合わせ・内容
江戸川かつぱ交流市	11月16日(日) 10時~15時	なぎさ公園	フリマ出展料 1,000円	NPO 地域交流センター、防災「川・海・まち・ひと」 つなぎ実行委員会 千田 TEL 090-2238-1815
葛西の寄り合い所 杜の会	11月19日(水)12月3日(水) 12月17日(水)13時~15時	西葛西 5-7-8 第二ドミール森田 404 号	200円 材料費別	石井 TEL 080-1049-3310
夢ぼすと ホットできる居場所	11月24日(祝) 12月14日(日)13時~16時	東葛西コミュニティ会館	200円	一本 TEL 3878-9930
できることからはじめよう CO2の削減 (木の炭で炭焼き・スモーク作り)	11月30日(日) 10時30分~13時00分	富士公園	300円	どんぐり他 山田(要予約) TEL 5658-5295 講座日から1週間以内にキャンセルされる場合、 材料費いただきます
楽しい中国語講座	毎週木曜日 10時~11時30分	北小岩コミュニティ会館	600円	席 TEL 050-1321-7645 日原 TEL/FAX 3675-6046
第12・13回 朗読会	11月22日(土) 1月24日(土)10時30分~11時40分	タワーホール船堀 3階応接会議室	無料	堀川 TEL 3679-4357

「ひと あい えどがわ」編集委員

【3期生】重間樹、竹重真紀子【江】高島卓、矢作弘子【国】高森敬子、渡邊佳保里【子】松岡滋子、植草良子【介】

【4期生】後藤文夫、寺久保好子【江】秋元直美、木村裕子【国】住谷信夫、大曾根陽子【子】勝倉洋子、市川孝子【介】

【編集協力】品田正子【Nコンソサポの会】

掲載記事に関するお問い合わせは、江戸川総合人生大学事務局【電話:03-3676-9075】まで

素敵な情報をお待ちしています

学生有志からの中国大地震災害救援金 20,462 円を
日本赤十字社を通じて寄付いたしました。